

平成26年度第8回「墨田区子ども・子育て会議」、 「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」議事要旨

日時：平成27年1月14日（水）午後6時35分～8時25分
会場：区役所131会議室

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料№
(1) 各ワーキンググループの開催状況について	資料1
(2) 区立幼稚園の利用者負担額（保育料等）について	資料2
(3) 各ワーキンググループ専門委員会の報告について	資料3 資料4
(4) 墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画の素案について	資料5
(5) その他 ・学齢ワーキンググループ ミニシンポジウム「墨田が変わる、日本を変える、ワーク・ライフ・バランス」報告について ・事業計画 PR シンポジウム（3月21日開催）について	資料6 資料7

3 次回開催予定

日 時：平成27年2月23日（月）午後6時30分～8時30分

会 場：すみだリバーサイドホール（イベントホール）

主な議題：（仮称）墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画のパブリック・コメント結果について

4 閉会

配布資料

資料1	平成26年度第7回墨田区子ども・子育て会議（12月5日）以降におけるワーキンググループの開催状況及び今後の予定
資料2	区立幼稚園の利用者負担額（保育料等）について
資料3	今後の墨田区における健全育成施策と期待される児童館の役割（案）
資料4	墨田区乳幼児WG専門委員会報告書
資料5	墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画【素案】
資料6	「ワーク・ライフ・バランス ミニシンポジウム」アンケート集計結果
資料7	墨田区子ども・子育て支援事業計画 PR シンポジウム企画案

出席者(敬称略)

○委員

大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）
野原 健治（興望館館長）
高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）
西島 由美（にしじま小児科院長）
杉浦 浄澄（江東学園幼稚園副園長）
服部 榮（社会福祉法人 雲柱社理事長）
財津 亜紀子（文花子育てひろば施設長）
内田 淳（青少年委員協議会委員）
小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）
金子 里美（NTT 労働組合東京総支部執行委員）
佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）
賀川 祐二（NPO 法人 病児保育を作る会代表理事）
佐藤 摩耶子（公募）
莊司 美幸（公募）
多胡 晴子（公募）
徳野 奈穂子（公募）
福田 三加代（公募）
荒木 尚子（緑幼稚園長）
須藤 太郎（八広小学校長）
青塚 史子（太平保育園長）

<欠席委員>

長田 朋久（横川さくら保育園長）
野口 悦子（主任児童委員）
松芳 保（小学校 PTA 協議会会長）
飯田 昌弘（中学校 PTA 連合会会長）
森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）
菊本 和仁（桜堤中学校長）

<傍聴>

4 名（男性 1 名、女性 3 名）

○課長出席者

関口 芳正（子ども・子育て支援担当部長）、中橋 猛（保健衛生担当部長）、齋藤好正（学務課長【教育委員会事務局次長代理】）、池田 善久（厚生課長【福祉保健部長代理】）、小倉 孝弘（子育て支援課長）、鈴木 一郎（子ども課長）、村田 里美（子育て支援総合センター館長）

○事務局出席者(検討チーム含む)

浦辺・井場・遠藤・松本・田村・酒井・杉崎・長山・柿畑・坂田・梅原・高橋・藤井・黒岩・水野

○事務局(㈱地域総合計画研究所)

佐々木

1 開会

会長	これより開催する。
事務局	委員の出席状況について、現在の時点で 28 名の内、過半数以上が出席しており、定足数を満たしているため、会議は有効に成立している。傍聴者の出席、記録用の写真撮影と録音を了承願いたい。 また、第 7 回目の会議記録を委員に配布し、特段、修正等の意見がなかったため、議事録として確定している。

2 議題

(1) 各ワーキンググループの開催状況について

事務局	(資料 1 について説明)
会長	何か意見等はあるか。(特に意見なし)

(2) 区立幼稚園の利用者負担額(保育料等)について

事務局	(資料 2 について説明)
委員	私立幼稚園と区立幼稚園で差があるが、子どもは同じ幼稚園で同じ教育を受けている中で、この差の考えはどのようなものか。
事務局	私立幼稚園の保育料や他区の状況を参考にして、区で判断をしている。現行の徴収額や新制度の考え、公立施設の役割や意義などを考慮した。私立幼稚園の保育料に合わせる考えもあったが、保護者の負担も考えて、このような金額設定とした。
委員	サービス自体はそれほど変わらないのか。また、認定こども園について、一緒に進めていきたいと考えているが、公立幼稚園としてどう考えているか。
事務局	サービスはそれほど変わるわけではない。幼保連携の必要性は認識している。今後の幼稚園運営の状況を見ながら、そのタイミングや連携の仕方を検討していきたい。意見をいただき、情報交換をしながら進めていきたい。
委員	幼稚園で 8 月は保育料を徴収しないのか。保育料はすべて無料にすべきだと考える。
事務局	使用料の中に施設を利用するという考え方があるため、8 月に徴収していなかった。保育料改定の中で、幼児教育の位置付けを見据えながら、進めていきたい。
会長	このような意見があったことを、教育委員会へ伝えてほしい。

(3) 各ワーキンググループ専門委員会の報告について

事務局	(資料 3、資料 4 について説明)
委員	(資料 3 について説明)
会長	(資料 4 について説明) 何か意見等はあるか。(特に意見なし)

(4) 墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画の素案について

事務局	(資料 5 について説明)
委員	新規事業はあるが、終了した事業や統合した事業もあるのか。スクラップ・アンド・ビルドのスクラップの部分はどうか。また、それらの事業は目標が達成されたのか。
事務局	現計画では 192 事業であるが、今回、新規事業として出されたものが 17、既存事業で終了したものが 11 で、6 事業が増えたため、計画素案では 198 事業となっている。終了した事業は目標が達成されたものである。
委員	国際理解教育の推進において、現在、小中学校には多くの外国人もいるため、ここで「日本人」という表現はいかがかと感じた。
事務局	その意見は指導室に伝えたい。
委員	母親がインフルエンザにかかり、土日でも父親が勤務した場合、誰にも助けを求められない。区も土日・祝日や夜間は動けない。そうした場合に備えた緊急一時的な保育や連絡先を設けられないか。企業も、そうした場合には父親に休みを取らせてほしい。 また、育休を取らなくても良い人は構わないが、取りたい人がどれくらい取得できるかが重要ではないか。取りたくても取れない人が出なくなれば良いのではないか。
事務局	緊急一時保育については、枠を確保している保育園と、その時に空きがあれば利用できる保育園があるが、保育園の運営時間に合わせて行っている。また、利用に当たっては事前に園で面接し、1 日や 2 日の間は必要である。
会長	緊急一時では、窓口や広報が課題となるとの意見だが、いかがか。
事務局	虐待の場合は電話録音による対応を行っているが、急病の場合への対応は現在ない。いただいた意見は課題であり、また、相談につながらないケースも課題であるため、地域のネットワーク会議等での対応など、検討していきたい。 育休は、平成 25 年の全国平均で男性の取得率は約 2%である。また、2008 年の調査によれば、育休取得希望者は約 3 割であったが、取得者は 1%程度しかいない。そのようなことから、5 年後の目標を 3%としている。
委員	高学年の放課後の居場所の確保について、事業目標が検討中であるのに事業概要が書かれているが、もう少し具体的な内容を教えてほしい。
事務局	従来の高学年の需要数は 100 名と考えているが、ニーズ調査上は 900 名で潜在的なニーズはあるだろう。そのため、現在、高学年の子どもをどのように児童館で支援できるかを検討中であり、目標も定められていない。実施していく中で意見を伺いながら改善し、目標も定めていきたい。イメージとしては、登録制として居場所を把握する形を想定している。
委員	子どもはあまり学童クラブへ行きたくないが、親のニーズがある中で、墨田区として、どうあるべきかが定まっていないと思うため、検討してほしい。
事務局	これまでの墨田区の学童クラブは、基本的に低学年の児童の受け入れであった。学童クラブは生活の場であり、自立に向けた成長を促す場でもある。今回の法改正で高学年も対象となったが、基本的には条例によって、低学年と支援が必要な高学年を対象としている。ニーズ調査では 900 名のニーズがあり、区として、学童クラブは低学年までとし、それ以降は児童館で登録制として自立に向けた支援を行う制度を設ければと、学齢 WG で議論になった。それを受けたのが、高学年の放課後の居場所の確保である。
会長	この部分の文言は修正した方が良い。

委員	震災時のことも考えて、登録制や居場所のことを検討してほしい。
事務局	防災計画の中で検討していきたい。

(5) その他

(a) 学齢ワーキンググループ ミニシンポジウム「墨田が変わる、日本を変える、ワーク・ライフ・バランス」

報告について

事務局	(資料 6 について説明)
会長	継続的につながっていければと思う。
事務局	これが具体的な取り組みに結び付いていくことが重要であり、庁内で検討も始めている。計画の中にも関連する表現を入れている。

(b) 事業計画 PR シンポジウム (3 月 21 日開催) について

事務局	(資料 7 について説明)
委員	(シンポジウムについて補足説明)
委員	昨年、保育園や幼稚園の関係者も多く来場していた。入口に雛祭りの装飾があって好評であったため、スペースの問題もあるかと思うが、今回も設置をお願いしたい。
委員	2 月 21 日(土)に区報とホームページの掲載によってシンポジウムを周知するのか。保育の一時預かりもその日からの受付か。
事務局	区報発行とホームページ掲載は 2 月 21 日(土)である。ただし、土曜日は区役所が開いていないため、23 日(月)から一時預かりの受付を始めるとして周知したい。

(c) その他について

委員	ミニシンポジウムの私の発言において、「学齢 WG の校長の意見」は「学齢 WG の意見」であり、「介入」は「専門家の関わり」の趣旨であったため、お詫びと訂正をしたい。 また、計画に委員の感想や応援メッセージ等の一言を掲載する提案をしたい。いかがか。
会長	委員が賛同してくれればそのようにしたいが、いかがか。(特に意見なし) では、そのように進めたい。
事務局	文字数等は後日、お知らせする。

3 次回開催予定

事務局	今回は、2 月 23 日(月) 18 時 30 分より、すみだリバーサイドホール・イベントホールで行う。議題は、パブリック・コメントの結果報告を予定している。 また、次々回は 3 月 18 日(水)を予定している。
会長	以上で、閉会とする。

以上